

鏡石町立鏡石中学校
学校だより 第29号

最善美

「最善を尽くせ」
「美しくあれ」

令和5年11月20日(月) 発行責任者：校長 津金光彦

第35回ふくしま駅伝で鏡中生大躍動～最善を尽くして走り抜きました！！

11月19日(日)に“ふくしま駅伝”が開催されました。本校から選手として4名、登録選手・サポートスタッフとして5名、計9名の生徒が参加しました。全員が一生懸命に走り抜き、鏡石町選手団にも「最善を尽くせ」の魂を吹き込みました。そして、総合順位15位、町の部4位の大健闘に大いに貢献しました。本校からの出場選手・登録選手・サポートスタッフ等は、以下のとおりです。

1区(一般女子)真船琴美 7区(中学男子)森尾将弘
8区(中学男子)浅倉瑛太 9区(中学女子)飛澤胡来実
選手団 柳沼夏帆・増子新大・角田一太・小林杏瑠・志賀羽衣・
小林柚嬉/コーチ 齋藤 剛



鏡中自慢の子どもたちを町長さんや教育委員の皆さんに参観いただきました！



14日(火)、木賊町長、渡部教育長をはじめ、3名の教育委員、4名の町教委職員、計9名が鏡石中を訪問されました。学校の現状を確認するとともに、生徒のようすを参観しました。鏡中自慢の子どもたちを参観していただけたこと、とてもうれしくありがたく思います。参観後、皆様からは、以下の感想をいただきました。

- ☆ 朝の登校時、気持ちのよいあいさつを自分からしてくれる。
- ☆ 1年生の授業態度が落ち着いており、その成長の姿に驚いた。
- ☆ オランダ祭りをはじめとした、地域との交流を続けてほしい。
- ☆ 町防災無線の鏡中生のアナウンスがとてもすばらしい。好評である。



委員のみなさまからいただいた貴重なご意見・ご感想を今後の教育活動に生かしてまいります。何かとお忙しい中でのご来校に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



“優”しさとは“人”を“憂”える心をもつこと

14日(火)の朝のことです。昇降口で子どもたちを出迎えていると、2年生の女子生徒が、次のようなことを伝えてくれました。

『学校前の歩道(公民館につながる道)で、小学1年生の男の子がランドセルを降ろして、一人で固まっています。』

黄色い帽子を被っていたことから1年生と判断し、動かないでいることを心配し、伝えてくれたのでしょう。その男児のところへ向かい、事情を聞いたところ、忘れ物をした兄が家に戻ったため、ここで待っているとのことでした。何事もなくよかったと胸をなで下ろしました。報告してくれた女子生徒に事情を伝え、お礼を言いました。…と同時にその女子生徒の優しさをしみじみと感じました。

優しさとは、その字《優》が示すとおり、“人”を“憂”えることができる心なのだと思います。分かりやすく言い換えると、「人を心配できる心」。その心は、本校の校訓「最善を尽くせ」「美しくあれ」に通じるものがあると思います。そのような生徒が少しずつ、着実に育ってきていることをうれしく、誇りに思います。